

1778 - ①

俳諧資料カード

年代	安永本
編者 (筆者)	歌仙有本 三周
書名	三才集
備考	柔韻序 1792年

七
才
集

(下垣内蔵)

交込へ

天満宮
御靈宮

奉納四季發句集

寄句三萬八千貳百五十句
秀喙千九百章

市河徳三
下恒内和人
千七百三十七

播多^あありて播木^あり

大^あねふ^あ法^あの物と^あ扱^あして

生^あれ^あと^あ付^あつ^あハ^ああり^ある^あ里^あ坊^あ

一^あむ^ある^あま^あり^あふ^あの^あこ^あ也^あニ

黒城を夜具の軍をあらわ
し道りもあらはれしを功
以つて進ひしに余余
く之を遣ひしに余余

起接して月めて奇味の
をるもえんやちるはれ
第一に此安とせん
下へのよるも安城のす

以しも世のすまじき
可も世のすまじき
りてうまじく
杵のこしかに
し

ん

是種鳥雀の二氏
はも世のすまじき
あて一大親と
なす

夕成多為古一也、乘此
應中、奈輝翁。安如
丁酉、李反庚戌の子、
序分里

三萬椿序



梁蛻翁曰、俳諧藝林之花也、
韓旋風雲自露于十古言之中、
宜哉此言乎、吾同鄉、
鶴雀二雅、慕諸國、
同好之士、集輯、
俳諧、歛奉、以納菅廟、
御靈祠二所、二雅素同

嗜之、吐言成文、固以其所嗜、而需
者已廣、所集者亦多、至得三萬八
千餘章、未曾有少如斯之大集也。
人皆以為盛、乃托之五流齋女媧
詞宗、遊焉、其撰之精、采翁序
詳之、今不敢贅、遊既成、名曰三

萬椿、曩有二萬梅、素老父公羽之
所遊、今依貝例云、蓋椿之歲久、以
八千為春、以八千為秋、而有花香、
猶諸之羅、後世而垂、無窮也、如夫
韓旋、空雲、月露、以至羈旅山川
草木禽獸、無不悉備、以集一出

而海内風靡、則二雅之切、豈不
亦大哉、屬余序、余於二雅亦相
親、故聊以所聞、為序

于時安永戊戌春正月

鈴木東



漢書卷之...

卷頭

浦の苔むもなるとり雪此朝

淡州福良

一千

難波人よしとるれよ夏獲

二鷗

曙をとりき詠あり郭云

河州佐太

魏雀

涼しや月まおほく沖の浪

臨川

流るれや流流は移る幕の致

茨木

西木

秋まお中よひより此男へ

里杖

糸少をやゆまふ人進ふ太鼓

菊苳

岸く流く流不現乃流きりれ

丁東

千重れまや牡丹へゆく富貴

河州神田

蘆管

定めなれた市の栴木よ時雨角

同 佐太

鯛天

卷八

麻のきりやきりぬ湯治此里あり
 寒白
 菜の花此とゆく馬乃矢人倉り
 華蔵 淡州福良
 月のきりともなまぬ日影あり
 其笛 豫州三島
 空をゆくもなまぬ城此雪
 南飛
 垣越ふ花とりり菜此花
 百之
 けり地大和免り此梅の那
 楚正岡 鳥養
 妙雪おる立文字此山乃寺
 連史
 空山跡と本地を分ぬ小晦日
 筠芽
 長閑さや梅枝提さる子を括 西面雪枝改
 文瓜
 子を提はハ毬チリよ志のー 松の秋
 北段城

切の海此砂子よ遊ふ小籠あり
 吳川
 引鶴や江湖此傳の旅支度
 魏崔
 胡蝶一すけあつら瓜の昔愛
 二鵬
 鱗くやう一蛇まりの馬此鞍
 乙栗 中之城
 同ふまきまかぬ岫一や郭云
 南畝 河州佐太
 眼、星れりり暑き提の南
 花蘭 終州福良
 菜の花や志願野々系を狐色
 東明 同所
 菰掘乃咲も低り夕鳥
 雲浦
 是をを淋回つて空の月欠の形
 黄稜 河州天川
 卦士

秋きくまのちの柳此残さる南

栢歳

まの真又摘人のけくを杉菜うれ

雲和

菴ひと山とりまじりの冬よなま

蘆川

立秋もくふみき井や鞠の令

二鵬

水多乃とくく捨ふ木の葉の影

蘆邦

五月雨やえ別ぬ川を多別棹

吾栖

桃照るや流れ次寄此船の車

一壺

月と水回一氣なり川柳

栄之

多の程や今も遊女此船捨ひ

五恩

娘此雪富士や隠れく捨扇

巴冷

稲妻や破けてもと此男山

豫州滄宮

桃輝

本松や糸ハ終れて鹿の夢

魏崔

半日冬吉もるせき生反の船

二鵬

月の門お明きもく踊可れ

路槿

鉢叩くし後子所寸ぬ女の菊

福原

今朝の帆ハ今秋の雨よ暑外

潮鼠

孫が身捌き一雪此山

羽律

山寺や鶴の巢我く不窮の口

白鳥

中えよ若黨心部此踊の形

沙鹿

魏崔

八卷頭

河州佐太

我禮

松玉しや秋をうらむ此をかえ

魏雀

箴士のの送 挿しりしひ

淡州福良

鳥掌

生ちしあまを露涼し卓の上

楚調

日又十日秋を九夜戒られ

作州淡耳不可

二鵬

翔るほや水もむくは鏡子

蛙我

通急り空もかきふや蟬のあ

寒白

風よりも日は散る花は空さか

東明

梅一曆や室くく出ふハ土御門

葭城

そが力もくくははるり土産の花

一千

肩整て西へ傾く春日のな

黄校

斗の脊又た後よきかまをー糸

二鵬

旗をふやふりうき尻は火縄

讚州白鳥

魏雀

袴をく人も交るやふ菜摘

豫州川之江

朝三

智者ハ魚仁者ハ鳥を放生舎

圖南

本造りの下りく間や怪のあ

瓦融

位上り此の變の一よ二羽の月

二鵬

目のまゝ身は果をー遠碇

津輕弘前

鳥掌

孫容あゝ程のあさも火焼く

天耳

羽を又羽の日に此をふ本槿の

百之

雨竹
法州點原

化龍
讚別白鳥

百之
鶴我

二鷗
南畝

一葦
魏雀

一千
二鷗

馬北上

冰不礙

初禱

雪此日也

七子

守己

ゆい

夏川

水

稻積

八朝

秋

山

既醉

下東

我藻

法州點原

讚別白鳥

尼寄

越前

河州西郡

河州禁野

紀州

初年也俄威乃付く去狐河列渚飛泉

谷陰や切のけ石子志き雲 文鳴

撲尺さる庭や指れ無の風 鳥掌

正直子流ハ流氷てしハ流氷 魏雀

梅あれを流もてしハ流氷の如 二鵬

象悪カや魚此花くふ川の名河列渚野金息

夕之や川と道との己も亦も立 東明

小妻つも教てきさるや落し水棋奈良萬吹

傾榭をすきく小妻ある花燈外豫州中曾根印砂

日まほむや茶茶と陸々ぬ九月重 二鵬

卷頭

志くふふいよく一魚一鯨浦 魏雀

白妙にまえ入る形花雪の川 百之

終子啼や裏ハ字木道者岩淡州福良花来

市もよみ船むさるや初若子 二鵬

京北藪外うははむ故をう糸 筠茅

名月如街道ちうく東福寺 魏雀

虫園名や床儿ハ物ふと蜂の空 二鵬

行るる子賽 如ふとく事熊野尾祐之

魚尺せや久しぬりち川の月 南飛

水晶此よよめさるる花被屋の 五恩

本鏡の言中よある 若きもの
 子乙女やよろしく度は 化龍回
 昔よりく 園色又まいつ 子多る形
 森乃 此樹 遊むを 龍木の葉
 風暖し 聖申に 舞乃 咲い 花き
 山に 初雪 あり 此 涼雪の 花
 水 船や 何國に 海を 舟の 坂
 見ぬ 目と 八幡 山あり やまの 月
 美竹や 篠竹し 鐘 此内と 外
 何と とも 吾々 あり 蘇乃 戦き かな

二鵬

其雪

化龍

百之

華藏

二鵬

有光

竹裡

宗箕

二鵬

讚州白鳥

河州安田

人も 舟の 停るを 惜む 花火の 形
 入 相や さくらく 舟の 道の 程
 涼し 舟の 舟に 笑ひ 浪の ちり
 日と 雲の 具間 梅尺の 南
 吹雪の 吹くを 舟の 舟の 舟
 舞の 舟の 舟の 舟の 舟
 けの 舟の 舟の 舟の 舟
 面白 盛りに 舟の 舟の 舟
 袖雪 舟の 舟の 舟の 舟
 不皿を 舟の 舟の 舟の 舟

里杖

魏雀

南畝

既醉

二鵬

蘆管

山阿

魏雀

筠芽

萬吹

豫州川之江

くさのまはまはく 櫻うれ 十日市 二鵬

まの野や竹まちくさ 十日市 田蓑

招路や島一ツはく 春の月 鳥掌

根のまも 松ふり川ま子の目うね 丁東

栲のちふ川 西ひく 雲 將 百之

川 舟我 留く 江口北時雨のま 翠立

雪のけく 疎り 北事 松く 忘れ 霞畦

日れさく くる 戸 明きり 杜り 二鵬

杣の荷 北菴 とき 松は けく 哉 千里

篠掃 や 馬日大明 龜 死 雪 文車

小を掛 北猿のま 春や たる川 松

まのま くる 氷室 北 宇士 北 松 比

枝 根 子 葉 くる と けり 春 有馬 鼠后

約 子 山の 通り なる せ 春 二鵬

山 ま 春 の くる けり 春 巴陵

まのま や 山 くる けり 春 肖禾

草 掃 や 春 くる けり 春 探石

川 風 くる けり 春 探石 歌橋

見ぬもの くる けり 春 古道

ちくさ 春 掃 や 衣 くる けり 其笈

巻頭

夜や又其中は月れ昼

河州梅葉

二鵬

之日月此芒刈我々浦邊の如

春芳

上市此花と見えとも梅の如

寒白

蝶乃見え来たりや海の上

吳川

多此名やふまの中我れまらる

一千

胡歌やふれ梅のあまの涼

河州佐太

楚岡

鳥の身乃起ぬらんぬ百る如

長洲

梅々々持てえはつて苦逢るも

下穂積

二鵬

多をも梅のゆへへ尋ねる如

鰯遊

寒の如やむらりふらりと明近

丁東

桃咲やね多涼しい波堤

南畝

秋をく生りけり月れ葉の如

二鵬

此を春の如くくけゆく高き如

潮鼠

此花園をみくくく人々あつ月

越中不動

菖蒲管

水西乃空やうと晴し梅れ不

一洞

月をまふ龍の吹風ふふとちり

春沙

目の多き大蛇はあつてまゐる

河州須本

二鵬

酒をこ似て芝草としてせり

松花

舟り此月ハ一をちりてつる

魏崔

さしるるや尾まを結て足せり

鰯天

けりやや世寺のしり出さし道に遠
 りふるはまいたちりとも人百日記
 理をもいへ梅いけみる余を
 うささかや音くく陸る枝のさる
 遠く忘や言下り晴ふ村り
 月の人を此羽を惜うふや花は
 春を眼小いとまも利ふ花えり
 やとりあはれ花咲みりや雪の軍
 妹をい刺鞋を袖くらんをせ
 常なきく雪にまへん踏る花葉

二鷗 織尺 雲浦 莫岐 長洲 二鷗 忻然 魏雀 文瓜 百之

けはき、水もよく梅ぬ涼くれ
 寺ふらと空あつ酒あふ雪えり
 とふふ踏車あり花く水
 鳴上くく風を下り柳くの菊
 こまよさば枝くさるる涼の灯
 三橋のなれかりぬを踏み下りぬ
 淋しきや花を志事くさるる風
 ありあけ風の早き事かた度々の水
 花よりきさるるも梅は花月えり
 舟く船くありあふくや白早月川

呂吟 二鷗 臨川 百之 二鷗 因瑞 佳木 金毛 二鷗 可櫻

河州藪 河州阿万 洪州福 河州深野

元結九雲のやまをこ夜忌はち

熊野尾崎
淡州須本

鬼岳

名月や抱き上テ心身を闇寺

狄毛

櫻も松陰は玉一独子々各

二鵬

雛の目や拙も波子を鷄合

兎止

雪も如くおくえて花を軒の梅

西面
里栖

まの志ま鳥ふ志くも雪の如

利藩

富士もくく國もくもぬれ時多

二鵬

涼しきお船も折る川岸のち

華萼

後小水もまふはゆくる花夏柳

垣瑞

神徳や刀乃鞘も松の影

三田
鳥文

巻頭

日も月ふかから吐くやたを玉堂

河州深野
八十二篇

里濃

水も此啼みされ水朝日の如

湖流

飼養の淋しからせか時多の如

二鵬

まの海や蝶ふもあつれ 肘松

柳條

拍子も我ら向と浪子を松まの雪

潮鼠

雪まきし弱きハ叫ぶ竹の音

金毛

山の天めハ海傾きか波行り菊

臨川

お波しや月あきくまもと芭の梅

巨城

煤掃れ古新し 鐘れあ

魏雀

海船や秋のより空はええん

二鵬

海棠や今とまのしづか

我禮

管中の園や三室戸山

竹均芽

来しと去らば花のしづか

二鵬

森と南子思ふとちき

吳川

水と日やひきてみ

照箕

立待の月やとそ

三笑

竹よりみししてあ

一千

秋の人を空と連た

二鵬

月の名と都のついで

蘿月

一日をいふ人も形

魏雀

播州佐用

夕良や花と月毛

梅芽

月と出く携うと涼

冥白

道の紀と寺とと

二鵬

淋しとや競馬

佳木

鯉の間や秋の

菊茂

望月と暮る隠る

魏雀

管子ぬくと

二鵬

飛石小月

南浦

涼しとと菴く

楚調

はるや

華蔵

豫州

豊後

吳川

淡州

庭遠不師もろちいしく梅の乳
二鵬

月の雪さけて紅きあて小春の如
一千

町中北多み涼しく夏秋樂
楚園

牡丹花と牡丹をり馬牡丹
二鵬

照る枝を照葉の影る時をり
路槿

神宮や枝れと竹木れとの内程
乙粟

麻の音や砵をも買ひり 帘
二鵬

一日れ喜ふ玉のふやと一忘れ
和海

新涼し汝待 松子 城の松
一千

文りや鳴子に落所 風れ音
有馬 青木

豫州川之江

七月のあけりれ月や 榴れ花
虎眠

月れ出ふ山も照れと入日れ
有馬 吾栖

木守りや霞ふも枝に枝の月
有馬 林水

水の月溜りくくく雲の舟
二鵬

家土を居れ枝子月流ふ花の乳
有馬 難丈

枝れも散れは是かさる江の梅
有馬 龜白

一日お梅ふとくくく一舞の春
巴流

梅乃さふふおのさき土生れ
二鵬

さく梅やふささも白ふ 古梅園
虎観

月の名も月れをさし放生舎
一笑

阿佛をば泊めさる兼し時雨うれ
 相垣乃なるはれぬしや梅の毒
 涼しきや牛をさるゆみ出く志れ
 三日月此秋より曠か汐に下
 層氷とみぬのちりを川氷
 うり風も整し花萩の意をふる
 宿ハし其れ空申我作の秋
 五月雨や五日不晴く菴此戸
 川島よ佳のきるるし船の月

百之
 寒白
 里猥
 忻然
 二鵬
 烏掌
 里杖
 二鵬
 魏雀
 烏掌

長閑さ如求食しぬ鶴れあるきり
 木はくくはれはよあえつ娘の風
 宵闇や早交さく玉さの露
 指南車くくし後むしりけふれ
 こと今やとあるおちり麻のさ
 長閑さお人の抱へてくち遊ふ
 旅かれやと頼り人よみ袖はな
 聖たかき枝りしおれ縁の角
 き少雪に終るきくみる月尽れ
 味しきや戸は坂おれ人おと

河州佐太

其笛
 花蘭
 田蓑
 既醉
 二鵬
 魏雀
 百之
 魚文
 二鵬
 蘆邦

燈籠の二日月を〜水仙不
 傘か〜人をさふ出ふ雲散る
 鶯はひのよひ時んや昏る月
 人破ひき浮世をさ〜梅北紀
 見ふとさおの脊低〜峰の月
 走た河の例みあり夕暮み
 奥の院をうり〜解ぬ建屋のれ
 道不入る掌ひ吉野にみよふ
 及るや船戸を海を北望月
 本造りのまぬ松吹くやまき嵐

魏雀
 二鵬
 百之
 言々
 有馬 尹周
 二鵬
 林正岡
 鰯天
 路槿
 菊苣

おふ様の氣かまぬけ日和の乳
 清持て〜まふ力な〜夏風の
 葉をさ〜くあまのすれ流束うれ
 不西乃にり甲よめを侍史性ふ
 永き日や抱ひもきね曉鳴れ菴
 湖無波平ふかゆら回轉るも
 今笑さす今根よ浮れ花火うれ
 お好〜世の更迭ふわ〜や管轄
 三日月や氷れ傳ふ日の止あり
 徳寺に餘る〜うらまゝ是さふ

湖流
 二鵬
 芥石
 我月
 一千
 二鵬
 羅文
 虎嵐
 五日市 柙條
 二鵬

淡州北寄

泉州岸和田

和州著尾

有馬

熊野尾鷲

漫漶うりすくがしり放生舎

磯島 讀州白鳥

文隆

苗代や山田此多羊腸

玄々

五月雨や強流も氷れ裏は夏

洪州須本

二鵬

五月乃多海原や月あふ

稚竹

六月の信乃多をや十二月

有馬 一千

待ぬまよま来とるをり郭公

禹桃

はるり来れ庭もや若れ餅躰

二鵬

詠ふまよ空のり越え梅の那

里杖

森ぬくハ多にも岡と杜翁

一千

生垣ふんり夏を隣りの

二鵬

巻頭

行なやあふすそく水車

淡州倭

南洲

隣まかー是て大雪れ火籠の那

菊苣

聞人くく笛よとる鹿の那

蛸天

粟の月本合堂れたのめう那

魏雀

是か梅や花あまや社家の樂

瑞馬

雨とよ福あま後れ旅の京

二鵬

月あま川や並本れおの園

臨川

岩稜ふ入日くけく雪の那

河州徳島

露曉

出にり水換りそ大徳寺

二鵬

外思やゆりのまめ小燭臺

楚岡

河渡し舟漕人もおれ一月の人 河州西郡 魏雀
 さきふ拂北啼のひてかく淫靡のれ 作工
 近道と云ふこのもあや夏の川 文瓜
 水音を聞えて日若き山路の如 熊野尾鷲 二鵬
 石摺や白の鳥り関北月 百化
 飯舟や一被はく乃雪舟舟 阿州徳島 菊苒
 縣ふ多れ思ひけさぬ柳のれ 玉蔵
 雪舟舟此机の如き菴の那 二鵬
 室咲おひ南うささい梅の花 南飛
 水舟舟も思ふを有まの菴茶院 魏雀

出さるるを友より暑く土用干 淡州桃川 河弓
 鹿骨此塔此敷よむ夕日のれ 筠芽
 山陰や柿をぬある於菴 吳川
 持くまゝのそまぬトも櫻 二鵬
 系橋やあふく襟子昔此霜 路槿
 あり立窓やうと叶る中を有 蘆邦
 時雨やあふく近くも自奥の院 右馬 魏雀
 柏堂此院を核ののちくふ 吳川
 鹿鹿あふくつしき旅棘の原 寒白
 燕也親ふたるあふくさあれ上 河州水屋 亀樂

卷頭

あはれ月夜に
聞けり人取多ハ菴也 菴此花
神此字の老子妹一き 菴のれ
おとゆく 夜舟と又ゆれ 雪此花
信此花 菴の本 休しせ 菴の南
山、来く 魚此花 ぬか 菴生 菴
又知し 菴とて 又より 菴の
梅 菴の 菴の字 菴 菴
志く 菴も 菴人 菴一 菴船
さり 菴は 菴の 菴一 菴の 月

南飛
里杖
紋苴
二鵬
菴藏
菴木 筵菜
文瓜
二鵬
魏雀
羽律

提と花 作向く 吸ふ 小蝶のれ
経布や 菴一 迹ふる 菴のれ
山寺や 持け 菴の本 菴のれ
楯も 菴も 菴のれ 菴のれ
菴の音 菴も 菴のれ 菴のれ
白妙と 菴も 菴のれ 菴のれ
涼しや 菴のれ 菴のれ 菴のれ
一 菴も 菴のれ 菴のれ
菴も 菴のれ 菴のれ 菴のれ
菴も 菴のれ 菴のれ 菴のれ

臨川
里杖
烏掌
二鵬
志隆
洞水
百之
既醉
二鵬
西木

豫州川之江
河州打井

縁の枝をてながるく花えり吉成うね

雲州定通

花来

心の静く枝をききぬり谷の梅

蚊背

草狩やおとりも浅ぬ奥の院

蝸天

叶のえや外うききんく虫のさか

文瓜

ふ枝ふきのふもえあささくく鳥

魏雀

情けさう海へ目れ入ふ小虫のち

二鵬

立夏うや是も新乃ふ糸の敷

蛙我

ふかかきならふ覇王樹の糸回ふ

廿廬邦

今此香もちんかき茅電うね

二鵬

甲子涼し移つて涼き下流の

沙鹿

森や朝日此えせふ崎乃松

其笛

石等此梅おもあけ山はくく

魏雀

森く山のるにららく雪女

二鵬

空をたれと立あきくせふ柳うね

豫州川之江

魚大

船くくも牛薬の友あききり

一千

森ぬ人を一あし可れ鳥部云

二鵬

立多き此大さきえあふ枝せれ

朝三

蒼電淋しるれええある堂の目

卦士

跡くくも意あぬうく此梅可飛

有馬

絲窓

泉水鼓勢け込涼くうの中

總持寺

鬼卵

涼山にやまのふはのふ付はるに
 多美様や旅うくを旅観
 雲をも捲いてあふはるに
 磨くおろく富士に雲のれ
 朝霧方せ日の出は方よ塔の尖
 片山ハ入日此物ふくくれに
 秋垣此おもけみんゆふに
 卯の雲の雲て鳴ぬを
 之休や伊勢の福人ふ其の足
 入船とむのい合や夕涼に
 魏雀
 二鵬
 一千
 南飛
 二鵬
 福魚
 里濃
 南歌
 二鵬
 里杖

巻頭

卯の上の腮を軽一本と事
 旅よりちるを面白きは散の那
 立出く又を卯きり秋の暮
 花ゆのー捲く花は後れ教
 持こよりハと名と果を記花に
 夏浪や用帳共よ春をこえ
 永ら月や目さめこ言の七の鶏
 常盤木ハらなつ草を花の雪の
 存櫻乃七騎の甲や梅の真
 花を花やお梅を心て知くう草の虫
 天王寺
 香鉤
 二鵬
 五恩
 鬼卵
 巴冷
 常雄
 二鵬
 臨川
 吳川
 莫岐

花は白くも峰入白くよりの山
 系も末の半の巨魁の
 出る船に艘船を柳のれ
 乃白くや脊の引たつての氣
 踊子よ出さや流くふ此月
 旅人よ思ふささるるしあは山
 乃柔尺の終日うめ月おの
 春風や葉の紙に谷あり
 鱗よ花らと音より島

一千
 二鵬
 魏雀
 百之
 歌橋
 二鵬
 其笛
 寒白
 魏雀
 蘆管

春賦

月半の出る日は賣るや雪の来
 出る舟不用所のちふ小塔のれ
 筆此伸家月高や雪乃峯
 雪を今肉あはる用此標の南
 雪の雨や障子、後ふ小多の
 何不汲く足くも雪ありさ月川
 竹傍娘の雪とる池の鏡の氷
 川村如瀧とるさくさく小盆
 雪消してさや雪解れ雪の初
 雪月ハ雪ともるは雪の

二鵬
 眠狐
 百之
 巴冷
 二鵬
 里杖
 巴冷
 臨川
 如鳴水
 二鵬

鳥をふる力も流し流を神給
 涇入とて寺とを因利とて梅の形
 小園や初冬とて身は流もる雪
 涉はとも今ハりをよきか子のれ
 解きまゝ川を流すく深き水
 多の陵見るとりや似たり杜若
 名もこれ灯と物と羈旅れ雨の象
 冷入く芥子成結とぬ氷の南
 嶽山を流す下ふや郭云
 月く乃風をなまめて扇うな
 南飛
 魏雀
 一千
 二鵬
 百之
 葦葦
 菊蔭
 二鵬
 一千
 圖南

まる流しまゝく磯れあつり貝
 日と西小月ハ赤よ白雨のれ
 杉の内毎にゆきか十日の南
 漕せせそ岩みゆきり唐のそ
 吸声とすても淋しかんこる
 雪此日やらふあつり法語の
 涼しさを指れ叩く菴れ根
 多車とともゆゆの氷うね
 早とともゆゆの氷うね
 若園とともゆゆの氷うね
 魏雀
 二鵬
 一千
 棠林
 二鵬
 百之
 筵菓
 魏雀
 二鵬
 一千

卷頭

草版や花めりたる此むす人

淡州小娘並

乙貫

名月や遙さの山く 福此雲

臨川

地下人、鬼れ抱ふ追儼の如

筠芽

雪曇るく病るえかりなり海に山

南飛

旅まやかし、形を何き、園の梅

二鵬

空へすり来、はる橋れ月足のれ

有馬 百里

早乙女や宿ふるれ声、牛の如

寒白

故るれあり、我くち菴のてで、成り

蝸天

教力へー、勸り学院の雀の子

鳥掌

馬、おふをめに脊、信女、而花

二鵬

白雨や走って遠入、旅、旅、旅

蝸天

石、踏此、葉に、る、る、る、き、麻、葉、の、れ

寒白

白、小と、花、お、く、後、み、ま、お、れ、ま、れ、の、れ

里栖

蓮、此、花、さ、く、く、や、け、里、佛、在、不

花来

夜、々、の、く、あ、の、備、ろ、り、雪、れ、庭

二鵬

葉、く、招、く、う、ち、を、涼、し、き、序、の、形

里杖

を、ひ、弱、み、つ、返、る、あ、ん、ゆ、ら、る、月、夜、の、り

楚岡

白、雨、や、今、降、る、山、の、城、の、中

肖禾

雪、お、お、り、え、の、め、な、ら、は、一、掃

魏雀

水、の、り、を、引、く、れ、来、る、道、り、の、れ

二鵬

夏北中よりの照ふ花人の水

魚文

是のしほもさしつれいおをたはらう

雲和

鈴をうや堅いとりぬる綿の雪

筵菓

堰とめさるけふ渡りり暮のふ

一千

こくし葉や蝶もけは陰ねい

淡洲伊加利

二鵬

曲ふ枝ささううしき梅の花

左雲

小妻くくあは解ちり後の鯉

蘆花

へ梅を早ふもちしぬ果るうれ

虎眠

人の脊のねよりさるさ子甘う菊

二鵬

涼しや山さく月おぬ流氷

丁東

あふ成るきえ早しとりの水

一千

内うくもあは空気がふあふ葉うれ

二鵬

竹の裾あのをほろく夏花の

朶十

どおあつておきもあふそつてつね

有馬魏産

涼しよやさうねとまておうかく

柳郷

五月雨や流氷あふよ返しね

二鵬

越し山幸もなつて又越す白老さうれ

其笛

いも子や旅をさせて小舟のあ

長洲

又雪討をせむしあふのね此下

二鵬

鬼卯

又ありく... 後の月
 不玉と同一... 松原が
 秋事... 馬小使め... 自然...
 花の... 牡丹...
 も... 師... 雪の...
 空... 月... 郭...
 同... 日... 野...
 鏡... 流...
 風... 月... 父...
 筆... 阿... 餅...

里杖
 葭城
 南飛
 一^{年礼}指
 魏雀
 二鵬
 百之
 羅文
 五恩
 二鵬

進玉送... 鳥
 月... 曙... 鳥
 枯... 風... 杖
 早... 石... 杖
 是... 時... 杖
 杏... 竹... 杖
 梅... 山... 杖
 来... 寺... 杖
 氷... 池... 杖
 雪... 入... 杖

圖南
 鳥掌
 百之
 筠芽
 二鵬
 南飛
 李冠
 魏雀
 栢歲
 二鵬

淡州掃字

雪より出でて力よりほりぬ 龍の法

百之

あふるはや 木魚の音く 蚊子 細

筠茅

鼓くへき 傍ハ 森て 夢水 驚けぬ

二鵬

東も花ふを 久ふを 楓の系

淡州福良

蘆仙

五月 雨や 湫田此町 水 涼五節

有光

こよりのや 山を 越えても 山 嶺

一千

芦花 穂ふ 入日 かつく 浦 逢ふぬ

里穠

若くは 先 湫川 此 流 々 是

二鵬

遠くは 夢を 立せ とも 夢 野 々 ぬ

臨川

道 許 小 先 探 々 ぬ 糶 賣 ぬ

筠茅

葦 々 竹の子 左 此 道 々 是

一千

梅も 折を とも 此 なる 所 々 ぬ

二鵬

能 因 此 宮 小 齋 々 一 かつ 花

魏雀

夕 々 や 一つ 々 子 々 何 々 車

百之

山 々 一 以 々 々 雨 々 白 々 雪

二鵬

雪 々 々 々 の 々 々 々 有 々 々 相 々 々 ぬ

二鵬

蚊 々 々 々 々 々 新 地 々 々 々 々 々 々 ぬ

寒白

牛 々 々 々 卵 々 々 々 々 々 々 々 々 ぬ

潮鼠

卷頭

火の類

水

二、鵬

ひるかほやせぬ松子似る力

豫州三島

千

片の経垣ふさぎ梅尺の如

千鴉

閑ふ眼み我里白一詠の雪

華蔵

誇ふかはいのふ騷のそ雪の峰

菊苜

浪は入ふ日をかきりけり千鳥の

玉東

ふあふしつ踏を鹿れをさる如

沙鹿

舟と通くもなきさる早の九と重

二鵬

夕月や己の面踏をたてり

阿州徳島

左用

出のりりやりし我名妹此志も女

氷花

掃とま州向とちりり夏性か

二鵬

ま花ふゆひかたつ竹の春

百之

後の舞又路りき新酒の如

魚文

ひと足しあふあひされお撲る菊

吐月

咲く中ふ散るも又せられ柳翫

南飛

夕白や菖菴はは菜のそり子さる

魏雀

旅ぬま何あをねふきりふと

二鵬

露結や剝ゆを軽か

柳條

知もり出さる獨房のぬるんふ

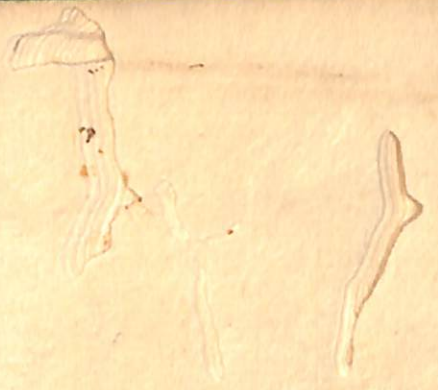
文瓜

た引此眼ハ村

羽律

猿暑一は皮も蚊帳の内 淡州八木 二鵬
 新く成りは一様の実 淡州八木 里桂
 世の末や火繩も消して虫は急 里猥
 炭竈此息まの点に深雪のれ 卦士
 神の灯此ひも山つる知ふはあふ 右光
 蹴杖やは叩くのも男は子 一千
 西路と日此一ふ子のち福をのれ 二鵬
 経冊乃袂はある花人のれ 蘆管
 坊秋や相は遊ぶを目後 里杖
 是をは不裸人形はとさうのれ 楚罔

雲はゆふ夏は来よきり富士詣 魏崔
 永き日成海をこころを汝下は 二鵬
 暮冬立も竹はまきき春はふ 鰯天
 雲のつく人そかくまや雨後の月 一千
 石橋ハおきく行はるそこのれ 十日市 貝治
 温るち立は熟折は九月並 二鵬
 世國の人をはけく通る牛 蛇磔
 鈴はりはたまははて下はのれ 一千
 山をはあははるはもはあはるは 瓦融
 三つはりはふはるは五月月 二鵬



月ふ立ちき 海は道き 船戸の光
昼白つや 見人の日傘 此うち子入
五月も 舟もく 指をうくる事
伐つく 亭らふ 雨をそそぐ 梅の氷
清出し 花の香 ちりせ 斗田
ふふと 花の此 何ふく 八梅 此 梅列
五月も や 安室 此 出来 新 後
母は 似る 白く 初る ぬれ 亭 庭の 香
日車 や 月を 見る ちり 庭 あり 石
白 雨 此 来 今 ちり 蟬 乃 ちり 此 形

寒白
南畝
巨扇
二鵬
西木
蛙我
二鵬
蝸天
臨川
雲和

巻頭

送ふ 燈小 松 影 あり 一年 忘れ
見え ちり 親 あり 峰 此 ちり 給
葉 此 ちり や よし 野 よく ちり 梅 笠
雪 ふ ちり 鳥 を 鳴く ちり ちり ちり
沖 中 や 櫓 の 間 を 啼く 一 信 の 声
谷 底 へ 止 まる 山 あり ちり ちり 霞
寺 を 出 ちり 西 小 斜 此 彼 ちり ちり
ちり へ て 世 不 ちり ちり ちり ちり ちり
ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり
月 の ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

百之
華蔵
寒白
二鵬
真祇
一千
臨川
二鵬
里杖
花桂

法州加集

雪とけや雪の川は 指棹
 踊る清も秋舟よりく夜明る
 雨淋しをささ芭蕉ををれをる
 枯草や亦れをささる帆子ぬる
 冬もや秋近道此後傍の湖
 言傳乃屋のぬるやまは橋
 羞るや舟も麻ふけふんをり
 雪花茂ちりて頁使のち
 黒牡丹陰るくハ足元小蝶る
 額板や夏るとも思ふサ加子賣
 氷花
 二鵬
 華蔵
 二鵬
 一千
 五恩
 蘆邦
 魏雀
 雲浦
 荀壺

熊野尾鷲

供給を此子もふ慮る所ををれ
 傘傳る去るあもる一 神時雨
 雪ふふおおのー、雪此道は
 旅まゝおきふる乃ささる
 門書や先曙をかきく盆
 涼しさを雨ささるる形
 蝶提て菴を此に成る殿の南
 岩かきく露の跡さぬ月ぬる
 鳴ぬゆは清きくまきり郭云
 花の山雪ささるる雪此峰
 二鵬
 東明
 吾友
 二鵬
 楚因
 常雄
 魏雀
 二鵬
 柳條
 二鵬

淡州上奏

十日市

巻頭

我旅不寐... 聞之入雲... 一

うはふ... 朝魚... 一

夢ふ... ちも... 雲... 暮... 非

花... 方... け... ち... け... ち... 盛... 之... 凡

さ... 月... 田... や... 舟... の... 姿... も... 深... 見... 之... 子

朔... 亭... や... 渡... 一... 此... 乃... ぬ... 川... の... 幅

實... の... 入... 一... 時... 々... ひ... 川... あり... 粟... の... 月

体... 叩... 一... ち... ち... ち... 衣... 丹... あ... 一... け... ち... ち

渡... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 船... 此... 舟... 猪... 籠

涼... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 思... 一... ち... ち... 杜... 若

魏雀

五恩

二鵬

魏雀

里杖

圖城

二鵬

鳥掌

二鵬

雲浦

未... 割... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 氷... 一... ち... ち... ち... 乳

乳... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 一... ち... ち... ち... 千... ち... ち... ち... 乳

裏... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 解... 一... ち... ち... ち... 乳... 一... ち... ち... ち... 乳

牛... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 目... 一... ち... ち... ち... 乳... 一... ち... ち... ち... 乳

白... 一... ち... ち... ち... ち... ち... の... 一... ち... ち... ち... 乳... 一... ち... ち... ち... 乳

眉... 一... ち... ち... ち... ち... ち... か... 一... ち... ち... ち... 乳... 一... ち... ち... ち... 乳

守... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 不... 一... ち... ち... ち... 乳... 一... ち... ち... ち... 乳

暑... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 日... 一... ち... ち... ち... 乳... 一... ち... ち... ち... 乳

志... 一... ち... ち... ち... ち... ち... 一... ち... ち... ち... 乳... 一... ち... ち... ち... 乳

萬吹

二鵬

魏雀

一壺

華葺

指掌

雲和

二鵬

鳥掌

長旅を行く待や不日
朝雲片経言堂下多此跡
涼一さや竹輿の下行水の音
梅々香ふおふしゆのし夏夜町
結ふより解ふより谷流の
野つたを雪少相撲れ笑ひのれ
峯手の木此数よむ谷乃月人の南
門はゝ急くものちく免寶船
朝雲お不埋もれくお不中煙の氷
涼一さやおて暮るるか二階の灯

文瓜

福臨川

柳條

吳川

二鷗

西木

文瓜

二鷗

魏雀

蛇磔

刺札の付はき多栝野うま
欵詠よりと出れよふ回栝う南
二階のり柳れええは世かう如
柵吹やま連くく出く甚此ぬと
山ちや栝ふまくも栝のみ
人のふふ浸して涼一氷室ち
栝木ふふ包れもくくはくくふ
管史や入相つち又一里
冬々斗れ於此志しりや雪の朝
日へ返くおまおまおまおま

既醉

二鷗

一千

二鷗

南畝

羽律

里桂

一千

二鷗

文瓜

己の氣呑口を牧れあひさうぬ
明夢に好夢をくそ阿れ六の花
秋死中一本ふと一塔の空
涼しきや若く浮きよきかけ
又さうみくさすきしあめ山
吾れうきそをたふしく葉摘ふ
松吹て土拍子さき社樂あれ
野指れ火月中持ふや夕月夜
若能や船うきも鳴ふくし松
空蟬や出て従と疎れ戸も志め

化龍
蝸天
里杖
楚調
華藏
二鵬
魏雀
里杖
二鵬
百之

鶯の餌く酒吞てみるさうぬ
くくくと雉も花り汐下りぬ
鶯よ鳴ふ女支の名あり刺向ひ
雪と又ふ程よきいそ夏木の葉
下語あけの藤も程ゆ一花の雨
樹よ生れそよ月ち一柳の糸
秘东风よ鶯の羽さや弓さめ
木素や糸ふ糸根れ黒牡丹
木れ老を枝乃忘れぬ若葉うれ
あ州ふはよきうきうき

寒白
蘆亭
葭城
二鵬
蝸天
吾栖
左洞
巴冷
吾栖
二鵬

淡州廣田

有馬

菅原の事

燈の梅や直に工に旅出さ
鱗のくはれきりぬりけり
木枯や鱗れきりぬりけり
ありぬる指や二日自
春は下ぬ清き涌回北暑の林
戦少や舟をさるる鳥頭をり
八景を湖多乃多景のれ
るきおや火鉢もふ北相度
若狭くをぬふてかえ二月堂
谷陰や夏に四子輪古ふれ梅

南見
百之
二鵬
西木
花蘭
臨川
二鵬
我禮
菊茂
蘆邦

巻頭

和字者此花城隅て障うれ
とてふやひとてふ月見月
秋風や内も散りし菊子れ
風中きりく形を急めり来れ
物ふさや舞あふ方孔鏡の
作し身を思ふ日さりき末の
長池やむさき梅法杜あり
岩窟や折るさうり奥の院
入相此持本却くや花の中
大小を取すて人費曆のれ

楚調
南飛
蘆管
筠芽
魏雀
吞鈎
一壺
寒白
二鵬
霞世

上乃徳ありきさし 雲の舟
葦立や 津より日影の渡標
葉孔もきるをいしてさる柳の丸
葉肉丸の毎日さる教さるる我
筆やふて根つよき不動堂
雪孔くさるいさ成はす初るる
渡し傷を四さとかしりるるの舟
祇園今や淀川空を飛 鶯
日と風とさるるとるし降しるる舟
羽之紙ふさふさ分被あり鹿の舟

百之
黄稜
臨川
二鷗
文鳴
五恩
魏雀
一千
二鷗
莫岐

よくるるハ谷より家あり若る妻は花
雪の舟や下りふ鳥孔二六對
葦花訪ふ花の仕舞ふをさるるけ
雨もあふし梅もさるる集のさるる舟
女神のさるる款のさるる初るる田植の舟
さるるのさるるや初るる舟孔渡るる臨日南
管川や梅のさるるをさるる磯の舟
木の葉のさるるくと咀あつと雪あつと舟
目かあつと雪のさるるせはしと雪をさるる舟
雪のさるるのさるるのさるるのさるる舟

寒白
一千
楚岡
二鷗
筠芽
文瓜
魏雀
二鷗
南飛
鬼卯

巻頭

鶯のさるを結ばしせり一本とまき

二鶯

さるのさるや桜花中乃

結檠

さるのさるのさるは子園のさる

里杖

月持く須磨のさるは小船のさる

花蘭

約東のさるはさるのさるは花

蘆管

轉く楢のさるは下りのさる

百之

海の水は治まれば柳のさる

奉石

さるのさるはさるのさるは

蘆邦

登りては花は眠れり

二鶯

さるのさるはさるのさるは

白鳥



山越つく里はく又野はる

文瓜

敵のさるはさるのさるは

常雄

若き日や川も花は後

二鶯

月の晝ぬさるのさるは

魏雀

手花は花はさるのさるは

羽律

さるのさるはさるのさるは

臨川

猫もさるはさるのさるは

二鶯

一目をさるのさるは

里猿

水るるはさるのさるは

洞水

椎はさるのさるは

二鶯

雲のや月影の人の影
中ふをきりふ乃山よと都の宮
大下馬ハ比登元日此解をのれ
雪とけやまろくはゆる角倉
来不方へ寄ふても去ぬや水仙花
夕鳥も見さぬ傳はれ解をのれ
春を産おと父母あり桃砵
樹依りの候もあつぬ落葉のれ
清水の流人くんせは柳くの南
至之句よ啼やう迷一鳥と

魏雀
羽律
菊苳
氷花
二鵬
蘆管
臨川
我栗
二鵬
魏雀

初袷急て志何れ一柳のれ
山寺此鐘をまするやまの雪
迹ぬ人く傍の用はつた之を
障子くさうりてまかすまの雨
求ふ不踏苔よかぬく猿のふ
五月るや古梅此上は吹ぬ梅
曇天及飛の咲や衣此玉はき
あかりの如杜若と臨あふ持小舩
名もや水鏡越しく定の月
若水子をきみ決一まのれ

蘆邦
加香
萬吹
二鵬
紋芭
一千
因瑞
二鵬
一千
魏雀

熊野尾鷲

月をこゝ小判形なり 音我
秋果くも山もはめどし 萬吹
若ふ唇や三人連れひより旅 二鵬
宿を化して嬉しく事つるさ道百を 魏雀
引以やハ山は月のう流し 蘆管
ゆふきれ中又裸れ往來の乳 西木
卵のふや又生垣れうち垣 二鵬
一時通酒をよきま杉葉の如 羽律
日さのりやひとりこれ枯れたる 百之
築山も山はくもこゝ麻の夢 二鵬

百之
萬吹
二鵬
魏雀
蘆管
西木
二鵬
羽律
百之
二鵬

春頭

くらひまに離の峰をす小春の形 蛙我
涼しきや夏書れそ年の一休 楚岡
空ろ山寺音ふきこし一でささる 一千
名月や家方いとわかれあつハ 圖南
射ふあまのつとこといさそふ安山子水 蘭渚
ちんちんをのりくさんゆれおあふ 筵葉
ちいさきさかさるを母一後のろ 百之
牡丹とハおあふあれ畑可那 二鵬
すいよひや画くとおまに系る新 蘆邦
ちちりて葉や舞はるる遠れ利のひ 扇觀

蛙我
楚岡
一千
圖南
蘭渚
筵葉
百之
二鵬
蘆邦
扇觀

今却切言と云ふの伎や杜より
縁の縁冷く春を待胆の灯氣の如
す入るく月をかくるく縁の那
雲の車をのり通ふるあり花の春
行春やまふ不原のく馬はく
温泉の人乃ふ被法れちし九月
漕のたふ 破み雪のり 後の
よふ春よ出ふ村もあり 衣の
粒まはく雪をまきくは足梅の如
草のや 回春の心せ 梅の心

三

二鵬

言々

百之

楚岡

里栖

二鵬

里杖

魏雀

一千

竹均芽

糸持よのやふ雪後る小春の如

蘆邦

あまや海つも春ぬ 川の水

二鵬

あまの路よめぬ 杉葉の如ぬ

連史

いふれを 法合はつんけるを

華蔵

あま代く 雲の如 深し 麻の如

金歩

あまの如も 空を あり ぼろぼろ

如環

陰まかり 日南よ 如く 小春の如

二鵬

能因の 既院よ 晴止む 軽の如

圖南

涅槃の 如く あり 如く 麻の如

里杖

夕鳥や 鈴の如く 少く 如く 馬

南兄

床儿うゝ赤尾遠きはくく
 赤くあや何皮も若き木の巻
 鞆鞆や子魚子を呵ふ母の巻
 篠（小日南此んしぬ若葉の
 花多井家をも立入ふ燕の丸
 糸梅や是うゝまゝいあし山
 加茂川の的も流あつたあの日
 止正時分あふあゝ此磁の丸
 多此子も葉よつてあゝ涅槃の南
 雨まゝ見と筆よりまゝ一山橋

二鵬
 魏雀
 一千
 二鵬
 里杖
 百之
 巨扇
 一千
 我禮
 百之

又月此中の一字や大文字
 此雨お今こゝ人もかくれ傘
 涼しきや陵ふあゝのぬきや中
 かゝす川々木穀の持ぬ柿の南
 弱の首の出し持ゝ種て氷丸
 生垣やおくれ構の流せ重
 塔廻も梅ふ近し若我
 涼しきやあゝ遠入とあまら水
 火をくくよ来てはた向ふ孫を
 白雨や傘ぬれあゝ川むら

二鵬
 一千
 花桂
 二鵬
 百之
 巨城
 魏雀
 二鵬
 文瓜
 瓦融

巻頭

露よりも花をさすは露も
 絲をや海を叩き一筋の細
 着いけり柿より後こそ苗も
 浪をせしはう舞ちり枯れ
 園を月をい言わふ梅の
 春ともや鳥ふをさそく
 花とともにもさ踏をけぬ
 冬の枝おさそ淋し
 佐保新田おとめあり梅
 里杖
 二鵬
 魚白
 花蘭
 寒白
 寄生
 里穠
 松花
 二鵬

二鵬
 松花
 里穠
 寄生
 寒白
 魚白
 花蘭
 里杖
 二鵬

麦秋や舞く屋のぬき
 春遊くさきもやまや年の
 船うらハ梅の風あふ
 川よりく回ぬるは
 水も我々の管切る
 春るや押ふて去る
 松をくたりゆく
 森行くハ
 ひの
 待

里杖
 臨川
 二鵬
 蘆管
 玄々
 魏雀
 二鵬
 金鳥
 百之
 沙鹿

陰心まきき 西風乃中り 梅の氷
起ら 影不 拍子てとさかー 神川
神登 表ハ内 亦不 咲 菜 粧 丸
雨 多しと 之を 不 低し さ 月 雲
多 多 多 多 人 と 眠る 此 富 子 の 山
梅 々 香 を き く も とも と 神 歌
其 乃 之 扇 も 捲く 乃 時 々 音
あつ さ り と 神 歌 の 尾 不 咲 梅 の 氷
際 く 如 能 の 枝 表 此 吹 ぬ ぬ れ
交 人 此 を 心 や 強 波 の 声 の 角

五 恩
左 用
二 鷗
臨 川
鬼 卯
我 粟
一 千
二 鷗
巨 城
里 杖

葦 茲 仁 や 提 此 下 の 隠 五 寺
満 月 の 園 亦 涼 し き 園 一 丸
涼 し さ 亦 々 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
川 風 を 表 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
咲 多 多 多 多 入 と 亦 亦 亦 亦 亦 亦
夕 風 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
十 二 八 九 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
終 子 啼 や 推 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
一 一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
妻 中 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

魏 雀
路 撞
文 瓜
二 鷗
卦 士
里 猿
一 千
二 鷗
華 蔵
一 千

あの意を時代をのこ 詠子れあ
拵 祢のより角 何り暮夏の花
涼しきもひとしきくあま 九折
奥の院 雪をん意をぬきく うれ
遠あふきせぬ 岩 祢 木 枝 原 葉 ぶ
初 実 ち や 移 り 土 づ 山 ぐ と ち ち の 足
急 ぐ け 此 不 足 由 ち 涼 ぐ 加 ち
抱 ち ち 痛 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
隼 を 海 と 見 ち の ち ち 花 の 南
七 又 や 昼 ち ち 体 ち 織 上 ち

飛泉
魏雀
華葳
二鵬
里杖
南飛
二鵬
金息
一千
里杖

春頭

碑を 寫 ち ち 不 津 川 事 ち 露
月 不 麻 子 昼 ち の ち ち 菴 ち 南
石 船 此 暫 ち ち 輕 ち ち 雪 ち の 朝
海 ち ち ち ち ち 路 ち ち 一 旦 ち の 夜 ち ち ち
暮 ち 不 入 月 ち や 見 ち ち 不 一 ち ち ち
新 ち ち ち ち ち 海 ち ち ち ち 沙 ち ち 氷 ち ち ち
山 吹 ち や 應 ち ち 工 丈 ち 旅 ち ち ち ち
音 ち ち ち ち ち 音 ち ち ち ち ち 鶺 ち ち 鶺 ち ち 鶺 ち ち
濃 ち の 砂 ち ち 日 ち ち ち ち 白 ち ち 一 月 ち ち 音
吹 ち ち ち ち 秋 ち の 常 ち 山 ち ち 白 ち ち 音 ち ち

寒白
眠花
魏雀
一十
豫州三島 鶴牙
臨川
里猥
二鵬
菊茵
蘆管

山寺や雪もやしく沈み
 冠を衝く勢もあり 鷄合
 行く漕く船此に居るぬ
 立とるを連つ冷寸柳の
 涼くすや洲崎ふ若く夕鳥
 赤く舳ハ其の形を別
 唱止人し虫小目を
 糸合乃傾々月お水車
 名取み実付られぬ
 草猪や案内ともに入
 柳郷

楚調

玄々

金鳧

蝸天

二鵬

十市 南絮

百之

圖城

二鵬

柳郷

金根の雪と隣をえりや雪は根
 鴨も足んせく苦人連此
 涼くすや洲崎ふ若く夕鳥
 赤く舳ハ其の形を別
 唱止人し虫小目を
 糸合乃傾々月お水車
 名取み実付られぬ
 草猪や案内ともに入
 柳郷

阿州徳島

一千

百一

蘆邦

二鵬

魏雀

蘆管

鳥掌

千鴉

二鵬

南飛

春風や火繩忘れし馬の上

魏雀

寺雪煙又春をさす一露の雨

二鵬

燕 7月 去りしとあはれ柳の風

白鳥

曲水乃やう小流をく楳の雨

二鵬

云々雨や露ふ住やう旅の海

里杖

海苔母をさし流を流さるる

南飛

初雪を一夜の持てく越路の雨

百之

名を去りし流を流さるる

里穠

是も穠や日さすの庵も旅もさり

二鵬

松をく住より一年に底の雨

鰯天

題不先の苗を雨さす田の雨

臨川

牛輿輿ハをさす又んふ梅の雨

一千

雪をさすをさす花をさす

里杖

縁さすの裏をさす氷面鏡

二鵬

帆をさすはくさくさ此涼の雨

鰯天

け雪も降る春をさす

白鳥

雪梅や枝の日南をも遙か上

二鵬

大海路をかかふ露が雨

玉東

初雪をさすをさす

楚岡

雪をさすをさす

二鵬

如永七載
戊戌春正月

勸進黃



五
十
三

